

第 44 回日本受精着床学会総会・学術講演会

O-46

東京, 2026.7.30-31

調節卵巣刺激周期の初回選択胚における iDAScore ver2.0 の予後予測能: Time to Pregnancy 短縮と流産回避への貢献

佐藤学、森本義晴

HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】 調節卵巣刺激(COS)周期では、通常、形態学的評価に基づき最良胚から順に移植が行われる。しかし、最良胚であっても不成功や流産に至るケースは少なくない。本研究では、AI 胚評価(iDAScore v2.0)の併用が初回移植の成績向上および流産リスク低減による Time to Pregnancy (TPP)短縮に寄与するかを検討した。

【方法】 2023 年 1 月～2024 年 12 月に当院で施行した初回単一胚盤胞移植(PGT 実施例を除く)のうち、COS 周期かつ凍結順位 1 番の胚を移植した 428 周期を対象とした。2023 年は形態評価のみで選別された群(n=176)、2024 年は iDAScore 導入下で選別された群(n=252)とし、両群の妊娠予後を比較した。さらに 2024 年群については、iDAScore 7.9(中央値)で高値群と低値群に分類し、層別解析を行った。

【成績】 胚同士の比較において、2024 年群の生産率は 42.9%となり、2023 年群(38.1%)と比較して向上傾向を認めた。流産率は 2023 年の 23.0%から 2024 年は 12.2%へと半減し、改善傾向を示した(P=0.06)。さらに 2024 年の移植胚を iDAScore 別に解析したところ、高スコア群(≥ 7.9)の生産率は 49.6%、流産率は 7.2%と極めて良好であった。一方、低スコア群(< 7.9)では生産率 36.3%、流産率 19.5%に留まり、形態学的最良胚であっても AI スコアによる乖離が存在することが示唆された(P=0.05)。

【結論】 iDAScore は、形態学的に「最良」と判定された胚の中から、さらに高い精度で識別した可能性がある。AI の活用は、形態評価の死角を補い、初回移植からの生産率向上と流産回避を通じて、Time to Pregnancy (TTP)の短縮に貢献した可能性が考えられた。